



とうきょう すくわくプログラム

2024年度活動報告書

目黒碑文谷雲母保育園



テーマ【 言葉 】

設定した理由・背景

オリンピックをきっかけに日本以外の様々な国名や言葉について興味を持ち話す姿が見られた。また、園の中に外国籍の友だちがいることで、肌の色や文化などの違いにも興味を持ってきている国旗クイズを行ったり自分たちの知っている単語を話したり姿もあり遊びや日々の生活の中で世界を知ることによって表現したり考察したりできるのではないかと感じた。

用意した環境設定

- ・ノートPC
- ・英語の絵本
- ・プロジェクター
- ・ワールドライブラリー
- ・プロジェクタースクリーン
- ・世界地図
- ・オンラインレッスン用カメラ
- ・国旗の塗り絵

活動のあゆみ

令和6年 1月6日～令和7年 3月28日

9:30～9:45 3歳児

9:50～10:05 4歳児

10:10～10:25 5歳児

毎週月～金まで毎日英会話教室を実施した。

1月：自分の国とは異なる言語に触れる。

2月：担当の先生に英語で質問をしてみる。

3月：日常の中で英語を使ってみる。

※探究活動の実績※

英会話教室が始まる前に子どもたちがどのくらい英語について知っているのかを最初に聞いてみた。果物や動物に関しては多少知っている児も見受けられたが、殆どの児がほぼ英語を知らないという状況だった。しかしオリンピックの開催や園内の外国籍の友達をきっかけに、より「知りたい」という気持ちが強くあった。活動としては、毎日の英会話教室、英語の絵本を読んでみる、世界の国について知るという活動を行った。まず大きく日々の英語教室を通して、知っている英単語の種類が増え、先生が教えてくれた英単語以外にも「～って英語でなんて言うの？」という疑問が出てくるようになった。また、戸外に出た際には英語教室で学んだ「Pigeon」や「Airplane」等、皆で言うようになったり、時折挨拶を英語で言ってみたりする姿が見られるようになった。今まであまり興味を持たなかった、ワールドライブラリーという園内にある世界の物語に自分たちから興味を持って読むようになった。読み聞かせの時間には、「これを今日は読んで」とワールドライブラリーの作品を選ぶようになった。更に子どもたちが興味を持った国の国旗を調べて色で塗ってみたり、英語だけでなく「フランスは～って挨拶らしいよ」と調べたことを友達と自主的に話すようになった。園内の外国籍の友達の肌の色の違いや分化の違いにもより興味を持って話したり、英語で話しかけたりする姿が見られるようになってきた。活動前までは、園生活の中で他国の事を話したり、日本語以外の言語を使用する姿が全くなかったが、英単語が飛び交う教室に変化し、より「～って英語では何だろう」という疑問が増えたり外国への興味が深まったりした。



英語の絵本を友だちと一緒に
読んでいる場面



英語教室の先生がいる国
に興味を持ち、国旗の塗り
絵を行う場面

まとめ

以前までは日常の保育の中では英語を取り入れる場面は殆どなく、興味を持っていなかったが、英会話教室で英語に触れることをきっかけに異国の言葉に興味を示し、英単語を発する姿が増えた。また、自主的に調べるようになり言葉だけでなく文化の違いや国旗等にも興味が出てきているように思う。英語クイズを行ったり外国作品の絵本に触れるたりする機会を今後も取り入れていきたいと思う。国旗等についても話す児が出てきたので、世界地図や図鑑等を手に取ることができるよう環境を整えていきたい。保育者も一緒に英語に触れて様々な文化を学ぶきっかけとなるよう努めたい。



とうきょう すくわくプログラム

2024年度活動報告書

目黒碑文谷雲母保育園



テーマ【 物語作り 】

設定した理由・背景

図書館の利用を通して様々な絵本に興味を持ちより興味関心が深まったように感じる。

絵本の展開を自分たちで予想する姿や塗り絵の活動ではオリジナルストーリー作りを行う姿からより表現力を高められるのではないかと思います設定した。

用意した環境設定

模造紙・画用紙・絵の具・クレヨン・カラーポリ袋・マジック（油性）など

活動のあゆみ

発表会へ向けて、日々の保育の中に組み込んでいった。

実施期間：11/1～2/8

テーマ①：物語を読み進める中で、自分が演じたい役や言いたい台詞、動き等を考える。

テーマ②：考えた動きをやってみたい、台詞を言ってみたりすることで自分が決めた役を表現してみる。

テーマ③：他者に向けて実際に表現する。

※探究活動の実績※

まず始めに主題となる物語を決めるところから子どもと一緒に考えていった。図書館へ行き、多くの絵本や紙芝居を読み、作品決めを行いオズの魔法使いに決定した。話し合いの中では様々な意見があり、自分の考えを言葉で伝えたり、異なる意見の友達の話聞いて受け入れたりして、お互いの意見を尊重しつつ一つの案にまとめる姿が見られた。物語の大まかな流れに関しては保育者が設定したが、どのようなキャラクターを登場させるのか、オズにどのような願いをするのかといった内容については子どもたちに決めてもらった。また、「自分の演じる登場人物はこの時どういう気持ちなのだろうか」と同じ役の友達と話し合い、動きを決めたり台詞を自分たちで決め直しており、より子どもたちらしい作品が出来上がっていたように感じる。更に「オズに願いを叶えてもらった姿やその時の気持ちはどうだろう」と保育者や友だちと話し合いを行い、衣装のイメージや色味も自分たちで決め、目黒碑文谷雲母保育園ならではのオズの魔法使いが完成した。最後に発表会を行い、保護者の前で今まで取り組んできたことを発表する場を設けた。最後まで自信を持って自分の役を演じることができていた。この活動をきっかけにより多くの物語作品に興味を持って読んだり、園内で絵本を読む際にもその作品のその後や登場人物の気持ちを考えたりする姿があり、想像力がより豊かになったように感じる。



台詞を印刷した紙を見て、皆で台詞の読み合わせをしている場面。



自分たちで考えた台詞や動きを、発表会で保護者に披露している様子。

まとめ

子どもたちが主体となって物語を作ることは難しいのではないかと考えていたが、物語の展開や登場人物の気持ちを想像して全員で一つの作品を作り上げることができていた。話し合いの際には、自分の思いを伝えつつも相手の意見に耳を傾ける姿があり成長が垣間見えた。活動をきっかけに物語への興味関心が深まったので、図書館を利用して多くの作品に触れられる機会を設けたり、読み聞かせの際にはその後の展開と一緒に考えてみる時間を作ったりしていきたい。また来年度には自分たちで最初から物語を作ってみることも実践してみたいと思う。